

令和元年度 第1回南砺市井波地域審議会会議録

- 1 開催日時 令和元年9月25日(水)午後1時30分から3時5分まで
- 2 開催場所 南砺市井波庁舎 多目的ホール(3階)
- 3 出席委員 11名  
三谷直樹、碓井好彦、大浦英征、橋場武志、藤井圭一、藤崎秀平、楠 順子、  
藤井清美、小橋昭夫、川合優子、松平清子
- 4 欠席委員 3名  
北村隆洋、長谷 力、長田正勝
- 5 市出席者 田中市長、上口市長政策部長、柴市長政策部担当部長、川森市民協働部長、  
荒木市民協働部担当部長、竹中地方創生推進課長、石崎行革・施設管理課長、  
市川南砺で暮らしません課長、山田井波行政センター長、亀田地方創生推進係長、  
西井秘書係長、勇崎協働のまちづくり係長、山河井波行政センター次長、影近協働の  
まちづくり係主事
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 題 (1) 南砺市総合計画 将来像について
- 8 その他 (1) 庁舎統合に伴う各課の移転スケジュールについて  
(2) 市が事務局を担っている各種団体事務の方向性について  
(3) 令和2年度からの組織機構改革について
- 9 会議経過

(井波行政センター長)

開会宣言

欠席委員の報告

(会長)

今日は素晴らしい秋晴れになりまして、出席いただきましてありがとうございます。今年は梅雨の長雨、それから梅雨明け後の猛暑、酷暑が続き、台風も来まして大変大きな被害も出ています。確実に気候がおかしくなっているのではないかと危惧しているところです。

この井波地域でも8月の盆過ぎから国際木彫刻キャンプ、それから獅子舞競演会という大きなイベントを取り行っていただきました。イベントが地域の活性化と団結力を生む大変重要なものと思っておりますが、今後そういうものが廃れていく。そういう危機にもあるという事で、如何に存続させるかは地域も考えますけど、また行政の方も一緒になって考えていただきたいと思っております。

本日の地域審議会の議題、総合計画の将来像について10年後、30年後どうなるかというところがこの中でうたわれていると思っております。特に南砺市の場合はSDGsという事で認定も受け、そういうものがこの中に組み込まれていくと思っております。

総合計画は来年度から実施されるということで、時間のない中での今日の審議会ですが、委員の皆様方には忌憚のない発言をお願いして、開会の挨拶とさせていただきますと思います。

(市長)

今ほど会長の話にもありましたように4年に1度の国際木彫刻キャンプ、今年は本当に大きな成果をあげたと大変うれしく思いました。また、日本遺産以降、特に地域の皆さんの想い、そしていろんな熱い気持ちがまちづくりとして、より大きくなってきたということ、間近に見させていただきました。いろんな話を聞きながら本当にそう思いました。会長がおっしゃるとおり、これをどう次の世代に繋ぐかということが、これから大きな我々の課題だという風に思います。

私たちが合併したときに「新市まちづくり計画」というものを作り、もともと10年間の計画でありました。東日本大震災が発生しまして、合併特例債とか15年以上伸びているのですが、地域審議会も15年に延ばしていただきました。もう一つ、「総合計画」が令和元年ですべてが並んで終わるわけです。そういう事を考えますと来年度からの10年間、来年度からの総合計画はそういった意味で、全てを踏襲しながらもしくは新たな政策、新たな仕組みを考えながら取り組んでいく、合併して初めての大きな計画だと位置付けております。

今回、総合計画は、今一番大きな課題の中心に、総合計画イコール次期総合戦略というような形で計画をしております。今日は総合計画の将来像についての議論、その他に統合庁舎の移転スケジュール。そして、いろんな事務局をどう考えていくかという事。そして新しい組織体系というものを皆様方にお示しをし、ご意見を賜りたい。

#### 議題(1) 南砺市総合計画 将来像について(資料1、資料1追加資料)

(地方創生推進課長)

資料1に基づき説明

(地方創生推進課地方創生推進係長)

追加資料について説明

(会長)

委員の皆様方に意見をいただきたいと思えます。

(A委員)

井波に住みたい、そういう気持ちのある人にこの井波というか南砺市に定住していただいて、それで働いてもらう。そういうのをバックアップ、フォローして人口が増えるようにしていただけたらいいかなと思います。

それとベッド&クラフト。井波彫刻の若手の方たちと一緒に盛上げていこうというか、人の体験をして、ただ見るだけの観光じゃなくてその生活に密着してもらうという、そういう観光を目指してらっしゃるので、井波や五箇山が観光で目指すとすると、そういう方の力を最大限にタイアップしていくことが大事だと思うので、そこも考えていただけたらいいと思います。

(市長)

若い人の気持ちというのは、昔から見ると相当変わってきていると思うのです。ですからそこを地

域のそういったところをコーディネートしてやっていきたいと思っています。県内では一番多いのが富山市、移住者が多いのですがマンションに住んでいる人が多いわけで、南砺には136名、富山県905人のうちの136人が昨年度の新たなIターンの方なので、そういうところをより充実して今後やっていくというのは当然入れたいと思っています。

それとベッドアンドクラフトの山川さん、すでに富山県の移住定住のことでやっておられる。本当に宝物のような人が来た。そこへ日本遺産、彫刻家の若い人たち。これが渦巻いて盛り上がってきているような気がして、そういうものを運営するというのは総合計画だと思っています。現在、一步前へ出て実践しておられるのが井波の若い人たちです。そのことを一緒に考える、一緒になってやっていくようなそんなことを総合計画に入れたい。具体的なものは今から作るのですが、こういう想いでおります。

(会長)

今ほどのご意見、また話は追加資料の目標とか、やるべきこととかに入ってくる話ですね。

(市長)

そうです。今まであるものを、よりグレードアップして。

(会長)

このキャッチコピーではなくて、少し纏めた理念みたいなもの、そういうまちづくりをしたいという理念を上の方に掲げて、それからいろんな施策が出てくるという、そういう作り方の方がわかりやすいと思うのですけど。

(市長)

今のところキャッチコピーで雰囲気があるというのが大事だと思いますし、リンクするフレーズも大事だと思いますけど、改めて考えさせていただくことにはなりますが、今言われたように、わかりやすい方向性というのを考えていく。

(B委員)

先程の話、井波の良さを他から来た人がどんどん磨いてくれているということですね。それに同調して若い人たちがやってきてるといふ、非常にいいところになっていると思います。

私は4番のまちづくり「伝統文化の継承」ということで非常に困っている事があります。伝統文化、よいやさ祭りをやらせていただいて、151名の力者を集めることがだんだん困難になってきた。そこで花神輿、女の人に担いでいただいた。これが県内から沢山の方々に来ていただき、担いでいただきました。子ども神輿の2台位は、将来的に言えば中学生も減ってくるという説もありますので、そういう形をとれないかと思っております。

この「伝統文化を守る」というのが、他の所も非常に苦労されていると思っています。文化はそれをそのまま継承するのが本来の姿かもしれませんが、それを形を変えて伝承していく。それが一番かなと。今それを行政にお願いするのも恐縮ですけど、知恵とかがあれば。

(市長)

神輿の担ぎ手がだんだん足らなくなっています。花神輿はいい案だなと。ここに住み続けている人たちだけで祭りを守っていこうというのは、もう先が見えてきたと思っています。関係人口、我々応

援市民で集めているのは200人いるのですが、これが国の考える新しいまちづくりの担い手って言われているのです。もう一つに今年、獅子舞競演会をやったのは、いろいろな所でそれぞれに獅子舞をやっておりますが、これを連携できないかとやってみたら、坪野と井口が一緒に踊りで一緒に笛だったと思う。そういうものがどんどんわかってきた。市内の人が集まる祭りに外部の人が来てくれる。そうすると地元の人はずっともっと集めて、行政としては関係人口のようなものを広げていく、そうことを今後考えていかなければならないと。

例えば木彫刻キャンプのボランティアというのは、南砺市外から相当沢山の方が来ています。スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドも相当来ている。スコットの演劇祭に募集したら県外国外から35人程が1ヶ月間。ボランティアということを超えた関係というか、そういうものを行政として関係人口のなかに、メリットデメリット含めてそういう機会を積極的にやらなきゃならないと思っています。

(C委員)

小規模多機能自治、基本的にはベターな考え方と思いますが、実質、各地区全部捉え方が違うのではないかと。地域によっては少しずつ考え方に違いがあって、横との連携が取りにくい話が出てくるのではないかと。この辺が一気にというのが厳しい話であったかと。前から協働のまちづくりという話もありましたが、ちぐはぐな所がどうなのか。やはりもう少し時間かけねばならないし財源等についても何もわからないという話です。一般市民にするとまったくわからないというのが現実だと思うので、その辺の考え方をはっきり打ち出された方がいいような気がします。

(市長)

昨日、福野にも出た意見で、その目標の下から2段目に「小規模多機能自治の推進」というのが目標ではなくて、ここは住民自治をきちっとやりましょうと。その手法として小規模多機能自治がありますよという。ただ推進するなら1年ですべてがうまくいくわけがないので、やはり長年で蓄積していく方が大事だろうという事を考えると、言葉として「小規模多機能自治」を推進するのではなくて、住民自治の在り方をちゃんと考えていきたいと思いますという中で、手法として何をするかという事を書くべきだという意見がありまして、私たちもそのとおりだと思いました。今の意見と同じだと思うのですが、名前が変わったから、組織が変わったからこれで終わりじゃないということはきちっと書いておかないとだめだなと。そうするとこれは住民自治のあり方を進化させていかなければならない。そういう中であってどういった手法をやるべきか。そんな中で今はスタートとして「小規模多機能自治」が、この言葉がわからないと言われればその通りで、地域の在り方を目標として入れようという事が大事だと考えています。

(C委員)

こじんまりした所と大きい所、やっぱり温度差はどうしてもあるものです。それが俗に言う「まちづくり」一つにしても、まったくちぐはぐな考え方になってくると思うので。

(市長)

おっしゃることも理解しております。

(会長)

小規模多機能の話は、まだ始めたばかりでなかなか体制が整っていない。3年間かけて体制を整えている中で、市のいろいろな担当部署から人の推薦をしてくれと、沢山依頼があります。我々は地域

の問題を何とか解決するために小規模多機能に一步、足を踏み出したんですけど、体制を整える前にどんどん依頼がくると、アップアップの状態になっているところもありますので、それは十分配慮しながら考慮しながら進めていただきたいと思います。

(D委員)

目標の「地域の活力を支える」というところで、福野ならコマツ、井波も大建工業とか東洋紡とかがあるんですけど。例えば大建なんか大きい工場で何を作っているのか。よく工場見学もあるんですけど、地域に開かれた情報をどれだけ知っているのか。地域の人、まちの人に地元の工場がどれだけすごいか知ってもらおう。地元ですごい企業があるのなら、こうした会社に勤めさせようとかそう思えるようにしていかなければいけないと思います。

(市長)

おっしゃる通りです。南砺市の人が息子に南砺市にはこんな企業があると紹介することが本当に皆無に近いと言われて、それで2年ぐらい前に、企業のホームページとか、企業の人に集まってもらって、これからまず南砺市の皆さんに何を作ってどうなっているか情報発信をしていきたいと思います。企業の方も何十周年の時に市民の皆さんにオープンにしますとか、少しずつ出てきております。南砺市にいて、この企業はこんな風でこんな企業だぞと言えるような、そんな事が大事だと思っていますので、今の意見を勿論、これからもまだ強く進めていかなきゃならない。

(E委員)

人口の増加ということが重要だと思っていますし、今までされていることも、少しずつ実りができるのではないかと感じています。それで、外部から転入される方をなるべく増やしたいと。

そして、継続しながら南砺市出身の子ども達、やがて大人になってまた帰ってきてくれる、そういった何かを子ども達の心に一つしっかりと楔のように付けてやりたい。いろんな地域の行事なり、あるいはイベントなり、生まれ育った地区のそういったことを体を通して覚えさせていきたい。きっとそれが、やがて帰ってくることに繋がるのではないかと。そうすれば皆でやっていく意味があると思っています。

そのために働ける場所を確保してあげる。そういった事に尽力していく事が関係するし、大切ではないかと思っています。そしてそれは外部からも選んでもらえることにも繋がると思うのでそういった良さの発信もこれまで以上にやっていく事が有効だと思いました。

(F委員)

今、一人3年目の弟子がおります。女の子ですけど、県外から彫刻が好きで3年前に来ました。井波の町が気に入って、もう一生ここに住みたいと言っております。まあ、彫刻が好きだということが一番大きな要因でなんでしょうけど、周りの人とか、周りの環境とかがあったかい。そういうことを言ってくれています。こちらで先日も木彫刻キャンプがありましたけど、フェイスブックで友だちになっていて、まだ一度も会ってない方が大勢来てくれました。非常に井波の町はいい所だと。

昨年、日本遺産になりました。彫刻業界は今また重要文化財級という仕事も入っております。業界にとっては非常に追い風が吹いているにもかかわらず、受け入れる親方さんがいないという理由で、今年は訓練校入校者ゼロだったのです。

市の方にはいろんな形で組合に対しても補助いただいております。財政も厳しいと思いますけども、厳しい中から補助をいただいて、大変感謝しております。今後も引き続きお願いしたい。実は明日、明後日と訓練生を引率して旅行に行つてまいります。そこで、また若い人の意見も聞いてきたいと思つています。

(市長)

聞かせてください。若い人の意見を聞かせてください、お願いいたします。

(G委員)

井波とはいわず南砺市にどこかの大学のキャンパスが誘致できないかとずっと思つてつています。そうすれば、住む所、学生さんの活気も出てくる。必ずしも新しい建物でなくてもいいと思うのです。古いものでも、魅力を感じるというのであれば。新しいものは新しいもの。今あるもので何か。

(会長)

市長さんも一流の田舎を作るとつて、南砺市だけ、全国で南砺市でだけつというつような大学、キャンパスですね。

(市長)

私も喉から手が出るほど作りたいです。

(H委員)

この計画そのものに数値目標ついうものを入られる予定がありますか。とつ言つますのは、ここにPDCAサイクルにより常に直す。見直すきっかけには、やはり数値目標があつてその数値目標が行かなかつたとか、行つた度合つをもつて見直す起点になつてくる。ですから、言葉を羅列されてついてもそれが本当に行つているのか、行つていないのかつということを明確にするために、数値目標ついうものを入れたらいいつと思うんですが、入られる予定はありますか。

(地方創生推進課長)

大変すばらしいご意見、ありがとうございます。数値目標につきましては、追加資料1の「目指すべきまちの姿」、今、仮のもので書いてはありますけれども、この黒四角で塗りつぶした部分、上からいくと年少人口の増加でありますとか、幸福度の向上が今後つという尺度で定義すればいいのか、こちらも迷つているところではありますがつこうついったもの。或いは、社会・・の均衡、シビックラインの・・。つこうついったものをアンケート、或いは実際に数値化できるものは数値化をしてつしっかりと目標を立てていくと。さらにその下の目標つというところ、「目標、目指すべきまちの姿を達成するための手段として掲げた目標」、これについても一つ一つわかりやすい指標を設けて、毎年、目標値につについては3年あるいは5年のスパンで見直しをかけていく。達成度を確認してかけていくサイクルになると思ついます。つそういった形で最終のゴールである「南砺市の将来像」に向けた取組が、まちの姿の段階ではどこまで進んでいるか、目標として掲げた所がどこまで進んでいるか、これを、数値目標を掲げながらつしっかりとチェックをしながら、検証を行いながら必要な施策を行つていきたい。つそういうつような計画と実行を考つているところでごつざついます。

(H委員)

測定の尺度が設定されると非常に分かりやすくなるつと思うのです。つこうついうやり方をつこうついう尺度

で見ますというように設定されると、それがいったか、いかなかったかということが非常に分かりやすくなります。是非、期待しています。

(市長)

総合計画では数値はきっちりとやりたい。

(I 委員)

以前勤めていた会社の事ですけど、大学を卒業して研修を終えた新人に、富山県南砺市井波工場の勤務を命ずると辞令が下されたら嫌がられたという事がありました。ところが最近、富山県に配属だと教育にお金がかからない、とてもいい所にいけるというのです。実は彼らはほとんど砺波市に住んでいるのですが、彼らを南砺市に持ってくる。南砺市へ来させるのに、5万円でも10万円でも定住促進費として市からくだされば住もうかなとか。そういう5万円位でも、その後、住民税が何年も、3年も4年でも居られたら何十万円と入ってくると思います。なぜ南砺市に来ないのかと、いつも不思議に思っていたのです。特に単身者は仕方ないにしても、皆さん小さい子どもさんを連れた方たちは、本当に富山県のここに住むという事自体がすごく嬉しい。教育にお金がかからない、そして素晴らしい環境と仰るほどなので、うまく彼らを南砺市に定住させる、移住させる何か、きっかけがあればと常々思っていました。

山川さんのお店も、たまたま家の向かいにあるものですから、毎日毎日、本当に素敵な女性、素敵な男性がお店に入っていられるのです。本当に町内もすごく若く活気づいているのも事実です。一つのお店でこれだけの効果があるのかと私、常々喜んでいきます。

(市長)

アパートの補助金もあるのですが、もうちょっと企業側にPRが不足していますね。

その他(1) 庁舎統合に伴う各課の移転スケジュールについて

(行革・施設管理課長)

資料に基づき説明

(会長)

今ほど説明いただきましたが、なにかご質問等あればお願いします。

(会長)

私の方から一つお伺いしますが、市民協働部の南砺で暮らしません課がありますけど、これはどうなっていくのですか。

(行革・施設管理課長)

本日は図面でお示し出来なかったのですが、最後に機構改革のお話もございます。

暮らしません課につきましては、議会に説明した時点では、統合庁舎の方に引っ越すという図面でお示しましたが、今のところ、今のままアスモの中に残ります。令和2年7月の時点ではアスモの

中に残るということで予定をしております。

(市長政策部長)

民間の未来支援センターというのができました。民間の団体に少し移管できるものは移管しながら、最終的には規模を縮小して、2年を目途に民間に委託できるものは民間に移管していく流れです。

(会長)

その移管するものとその課で担うものとは、課の名前変わってでも、例えば地域づくり協議会はずごく絡んでいるのですが、その業務は残すとか、何かそういうような。

(市長政策部長)

今後検討になりますが、そういったものは市として、どこかに地域づくり協議会の窓口というのは必要だと思っております。

(会長)

その部分はどこかに残すと。

(市長政策部長)

はい、全部が全部、移管するという考え方ではありませんので。

(会長)

名称は変わるかもしれないと、いうことですね。

(市長政策部長)

はい。

(E委員)

当面2年間というのは、いつまで。

(市長政策部長)

令和2年から3年にかけて、民間に移行できるものは移行していこうという考え方です。3年度で終わりということです。

## その他(2) 市が事務局を担っている各種団体事務の方向性について

(行革・施設管理課長)

資料に基づき説明

(会長)

今ほど説明いただきました移管するという事でこういう基準にしますよと、A B C Dとなっておりますけれども、これにつきまして何かご意見は。

では私の方から、行政推進員事務局の話ですけど、これには区長会と書いてありますが、井波では町内会長会ということです。井波の場合は毎年2回、この会議をやっていただいております、町内会長さんに集まっただき、南砺市の特にこういう方向で市政について説明等があればそこへ来て説明いただいたり、こういう事をしてほしいという事があれば説明をして、町内会長方一人一人にそ



ういう役割について説明をいただきながら、実施していただいているという場でありまして、今後こういう会合をやりたいという話になれば従来通り開催してもらえるという事でよろしいでしょうか。この会議が無くなると、都合が悪いので、何か市と町内会、地元とのパイプが、繋がりがなくなっていくような感じで、困ったと思うのですが。どんな事になっていくんでしょう。

(市民協働部担当部長)

行政推進員会議、区長会ともいうものですが、これは基本的には行政の方でこのまま引き続き行っていきたいと考えております。ただ、やり方につきましては、どんなやり方がいいのか検討させていただいているところなんですけど、行政推進員会議自体は行政の方でやります。

### その他（3）令和2年度からの組織機構改革について

(市長政策部長)

資料に基づき説明

(会長)

行政センターが今度、市民センターになるという話ですが、今までセンター長にいろいろな話、相談事しておりまして、大変助かっているのですが、市民センターの5名の方、誰か1名はそういうような仕事を受け持っていたら、そういう人が配置されるということでしょうか。

(市長政策部長)

これまでセンター長は課長職でありましたが、今後は主幹職がその管理者という形にしていこうと思っております。その上が市民課。市民課の課長が全ての市民センターを統括するという形にしていきたいと思います。地域の相談事もやっていたセンター長とは仕組みが変わってくると思っております。

(委員)

地域振興室とは、何？

(市長政策部長)

地域振興室の方では、どちらかというと地域の事をお聞きしたり、暮らしません課が地域づくり協議会の窓口になってまいりますので、どちらかというと地域振興室の方にいろいろと相談をかけたいただくという形になってくると思います。

(会長)

そうすると、それぞれの地域づくり協議会の方は、何か相談したい、今までセンター長と相談していたようなところは全部、そういう本課の方で、31協議会全部が出向かなければならないということですか。

(市長政策部長)

そういう形になってきます。

(会長)

大変、サービスが後退するような気がして、私は不安です。

(市長政策部長)

やはり地域との向き合い方というのをどういう風に変えていくかというのは手探りの部分があるからと思っております。

(会長)

行政センターがあって、私たち足繁く通わせていただき、そこで行政側とのパイプ役になって調整してもらっていたことが、全く出来なくなってくる話になる、そういう心配をするわけです。

(市長政策部長)

地域の声をどう吸い上げてくか。聞いていくかの形というのは、こちらの方も体制が変わりますので、似たような形でやりながら考えていきたいと思えます。

(会長)

その辺をまた、検討させていただける、そういう機会があればいいと思えます。

(副会長)

今日は貴重な時間、審議していただきましてありがとうございます。市の方はこれからまだ回られるということで、いろいろな意見があると思えますが聞いていただいて、南砺市がいい方向に向かうように進めていただきたいと思えます。

井波とか南砺市全体ですが、中にいると井波の良さとか南砺市の良さとか、これが当たり前なもので。いろいろ意見があると思えますけど、我々も地域づくり協議会の会合でも聞いております。今後いい方向にもっていききたいと思えます。

先程のP D C A。これはなかなか難しい話です。最後は目標を達成するがが一番いいのですが、それに向けて真剣に取り組んだという事を見るのはP D C Aが一番いいと思えます。総合計画の改善が目に見える、皆さんの目に見える、物を作ったり壊したりするのはわかるけど、こういう生まれて良かったとか、住んで良かったとかいうのは、なかなか実感としてわからないと思えます。皆さんにわかるような活動をスピード感を持って進んでいただきたいと思えます。

(井波行政センター長)

閉会宣言